

既習を活用して気付かせる新たな読み方

実践場面

小学校第3学年

「教材を読み進めていくために新たな読み方が必要であることに気付かせたい場面」

ねらい

児童は身に付けた資質・能力を活用・発揮しながら新しい教材を読み進めていくが、あるところで既習の読み方では読み進められない教材と出会う。そこで、文章の内容を把握できない理由を明確にすることで、新たな読み方（資質・能力）の存在とその必要性に気付くことができるようにする。

【アイディアのポイント】

単元計画の中に既習を想起する場面、課題に気付く場面、課題を解決するために必要な読み方を模索する場面等を意図的に位置付けることで、児童が新たな読み方（資質・能力）の存在と必要性に気付けるようにすることを目指す。

1, 2年生の説明文の確認

1年生

うみのかくれんぼ じどう車しらべ どうぶつの赤ちゃん

2年生

たんぽぽのちえ どうぶつ園のじゅうい 馬のおもちゃの作り方 おにごっこ

【確認1】

これまでの学習では、「時間や事柄などがどのような順序によって説明されているか」という構成に着目しながら、内容を把握してきた。

【確認2】

同じ構成の説明文の場合、児童は身に付けた「読み方」を用いながら読み、内容を把握してきた。



3年生で出会う、違う構成の説明文

【新たな読み方の獲得に向けて】

- ①身に付けた読み方で読んでみる。
- ②読み進められないことに気付く
その原因を探る。
- ③新しい読み方の必要性に気付く。
- ④新しい読み方を知る。

資質・能力の違いの確認

第1学年及び第2学年の「読むこと」

ア **時間的な順序や事柄の順序**などを考えながら、内容の大体を捉えること。

第3学年及び第4学年の「読むこと」


ア **段落相互の関係**に着目しながら、**考えとそれを支える理由や事例との関係**などについて、**叙述を基に捉えること。**

「順序」という視点


→「内容面から見た段落間の関係性」という視点

どのようにして単元に位置付けていけばよいのか。

「資質・能力の活用・発揮」場面の検討



児童が既習を振り返り、見通しをもつ場面が必要ね。



立ち止まった場面が印象的であればあるほど、新たな読み方の必要性に気付くことができるかもしれない。

【新たな読み方の獲得に向けた単元構成に必要な要素】

- ・これまでの学びを振り返り、身に付けている読み方を確認する時間の設定。
- ・既習の読み方と学習課題とを照らし合わせ解決に向けた見通しをもつ時間の設定。
- ・読みの問題点を確認し、新たな読み方の必要性に気付き、解決に向けた方向性を検討する時間の設定。

単元計画の作成

「こまを楽しむ」単元計画【従来版】

- 1 学習の見通しをもつ。
（こまについて知っていることを発表し合う。）
- 2 文章全体の組み立てに着目して、教材文を読む。
（「はじめ」「中」「おわり」のまとまりを捉える。）
（「はじめ」の部分に書かれている「問い」を確認する。）
（「中」の部分に書かれている「問い」に対する「答え」を整理する。）
（「おわり」の部分では、六つのこまをどのような言葉でまとめているのかについて考える。）
- 3 学習を振り返る。
（段落や文章の組み立てについて学んだことを振り返る。）

段落や、「はじめ」「中」「おわり」のまとまりに着目し、それぞれに書かれてあることを、中心になる言葉や文を確認しながら読み取る単元である。

そのため、

①「はじめ」「中」「おわり」の3部構成

②それぞれに書かれてあることの内容理解

という流れでこれまでの教材との違いを児童と共に確認していく。

単元計画の作成

「こまを楽しむ」単元計画【資質・能力の活用・発揮版】

- 1 学習の見通しをもつ。
（こまについて知っていることを発表し合う。）
- 2 既習を振り返る
（説明文は時間や事柄の順序に説明が並んでいて、順序を考えながら読んでいくと、内容を理解することができる。）
- 3 順序の意味を考えながら、教材文を読む。
 - ・文章（段落）の順序性を見付ける→見付からない
 - ・文章（段落）相互の関係性に着目（書かれている内容ごとにまとめる）
→三つに分けられる
 - ・**新**「はじめ」「中」「おわり」の文章構成を知る。
- 4 「はじめ」「中」「おわり」の文章構成に着目して、教材文を読む。
（「はじめ」「中」「おわり」のまとまりを捉える。）
（「はじめ」の部分に書かれている「問い」を確認する。）
（「中」の部分に書かれている「問い」に対する「答え」を整理する。）
（「おわり」の部分では、六つのこまをどのような言葉でまとめているのかについて考える。）
- 5 学習を振り返る。
（段落や文章の組み立てについて学んだことを振り返る）

※赤い部分が資質・能力の活用・発揮部分